

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地												
専門学校 久留米リハビリ テーション学院	平成15年3月31日	学院長 姫野 信吉	〒834-0102 福岡県八女郡広川町大字水原1541番地 (電話) 0943-32-7700												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地												
医療法人 八女発心会	平成4年3月5日	理事長 姫野 亜紀裕	〒834-0115 福岡県八女郡広川町大字新代2316番地 (電話) 0943-32-7111												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士											
医療	医療専門課程	作業療法学科	—	平成19年文部科学省 告示第27号											
学科の目的	本校は、教育基本法、学校教育法、理学療法士及び作業療法士法に基づき、医療分野に関する知識・技術を教授するとともに良識ある社会人として必要な資質を養い、地域社会の発展に貢献できる心豊かなスペシャリストの養成を目的とする。														
認定年月日	平成29年2月28日														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習	実験	実技								
4 年	昼間	3,415時間	2,145時間	285時間	985時間	0	0								
単位時間															
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数										
160人	144人	0	6人	14人	20人										
学期制度	■前期:4月1日から8月第4週まで ■後期:9月第1週から翌年3月31日まで		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験・履修状況等を基にして総合的に評価し、優良不可の4段階で表し、可以上を合格とする。学年ごとに各科目の平均点で順位付けし分布状況を把握している											
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月12日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月3日 ■学年末:3月31日		卒業・進級 条件	良識ある社会人として必要な資質を養い、地域社会の発展に貢献できる心豊かなスペシャリストとなるために、4年の修業年限以上を在学し、履修すべき全科目の認定及び卒業試験に合格し、課程修了を認定されること。出席が当該学年において履修すべき科目において不可があったもの、授業時数の3分の2を満たしていないものは進級できない。											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人および保護者との電話連絡、面談		課外活動	■課外活動の種類 自治会、学園祭、スポーツ大会、ボランティア活動 ■サークル活動: 有											
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 医療施設、診療所、介護老人保健施設等 ■就職指導内容 学内での就職セミナーや外部講師による接遇向上セミナー、就職面接試験対策の実施 ■卒業者数 : 29 人 ■就職希望者数 : 29 人 ■就職者数 : 28 人 ■就職率 : 96.6 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 96.6 % ■その他 ・進学者数 : 0人 (令和 2 年度卒業者に 令和3年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定 等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に 令和3年5月1日 時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作業療法士国家 試験受験資格</td> <td>②</td> <td>29人</td> <td>29人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	作業療法士国家 試験受験資格	②	29人	29人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
作業療法士国家 試験受験資格	②	29人	29人												
中途退学 の現状	■中途退学者 12 名 令和2年4月1日時点において、在学者146名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者134名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 成績不良、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 面談や学科会議、教員会議での情報共有による対策		■中退率 8.2 %												
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 入学時特別奨学金、指定校推薦特待生奨学金、遠方者特別支度奨励金、兄弟姉妹入学奨学金、入学後特別奨励金 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象														
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無														
当該学科の ホームページ URL	https://kurumereha.ac.jp														

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、学院長が選任した専攻分野に関連する施設等の役職員を外部委員として参画させ、外部委員の意見や要請等を活用し教育課程の編成を行う委員会を設置し、以下の事項を審議する。

- ・業界における人材の専門性の動向
- ・国又は地域の産業振興の方向性
- ・実務に必要な最新の知識、技術、技能
- ・その他教育課程の編成に関連する事項

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

・教育課程編成委員会では、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、学院長が選任した専攻分野に関する施設等の意見や要請等を活用し、教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む)を行うことを運営規程で定める。意見等は運営会議等で審議、決定して活用する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
井手 翔太郎	医療法人社団俊聖会 甘木中央病院	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	①
生野 正芳	医療法人 原鶴温泉病院	令和3年9月1日～令和4年3月31日(半年)	③
高山 皓	株式会社コスモ デイサービスこすも	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	③
田才 葵	社会医療法人聖ルチア会 聖ルチア病院	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	①
堀下 誉晃	医療法人八女発心会 介護老人保健施設舞風台	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	②
今福 一博	久留米リハビリテーション学院 副院長兼事務長	-	-
大坪 健一	久留米リハビリテーション学院 教務部長	-	-
岡 大樹	久留米リハビリテーション学院 作業療法学科学科長	-	-
野中 嘉代子	久留米リハビリテーション学院 理学療法学科学科長	-	-

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員
(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

令和3年度 2回開催予定

第1回 令和3年9月 開催予定

第2回 令和4年1月 開催予定

(開催日時(実績))

第1回 令和2年9月24日(木) 開催

第2回 令和3年1月28日(木) 開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

(意見)セラピストの現場での成功談や失敗談は、学生が関心を持ち臨床現場で働くうえでのイメージがしやすく、モチベーションにつながる。

→(活用)OSCEなど実技の授業で臨床のセラピストに指導いただく機会をもった。

(意見)臨床技能演習の授業でOSCEの指導にあたったが、イメージが付きやすい分固定されるのがデメリットになる。低学年でスタンダードを学び、高学年で臨機応変に対応できる育成が必要。

(活用)→実技は、教員一人が全員をみるのに限度があり、臨床で働く卒業生が講師として複数人介入し、学生一人当たりの接触を増やした。

(意見)薬理学について、薬がどう影響して血圧や心拍数が正常値になっているのかなど学んでおくことは重要。専門の講師を選任し、リハビリと関連付けて学生が臨床とつながりやすい学びの提供。

(活用)→薬理学の講師選任については、薬剤師や医師も検討する。

(意見)管理学について、病院の他部署との連携の必要性により組織を知ってもらうことも重要。

通所リハでは、PT・OT・STの他にケアマネージャー、福祉用具業者、市町村、地域の民生委員等、多様な関りがある。その方たちと接する機会があれば学生はイメージしやすいのでは。

(活用)→複数の講師で授業の組み立てを検討する。また、社会性向上セミナーの講師には、深く踏み込んだ多様な段階も検討する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

免許取得後3年以上業務に従事した作業療法士が実習指導者として実施可能な病院、診療所、老人保健施設を選定している。また、生徒数と指導者数の比率は2対1程度の体制がとれ、実習を行う上で必要な医療機械器具を備えている施設を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習前に実習指導者会議を開催し、学外施設の実習教育者に本学院の指針や目的を示し臨床実習の連絡調整を行う。実習はCCS(クリニカル・クラーク・シップ)形式を取り入れ、教育者は学生を助手として診療チームに参加させ、見学・模倣・実施の実体験を通してスキルを習得できるよう進める。評価に関しては学院が判定する。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	臨床教育者による、ある程度の助言・指導のもと理学療法を模倣や実施できるようになるために、診療参加型臨床実習(clinical clerkship:以下CCS)を通し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習することとする。 ＜臨床実習Ⅰの教育目標＞ CEの指導・監視のもと、理学療法士・作業療法士としての基本的な資質を高め、実施を推奨する臨床技能およびCEの臨床的思考過程において「模倣レベル」のスキルを修得する。	医療法人八女発心会姫野病院、医療法人小西第一病院、医療法人畏敬会井野辺病院、医療法人三井会神代病院、医療法人繁桜会馬場病院 総数 13施設
臨床実習Ⅱ	臨床教育者による、ある程度の助言・指導のもと理学療法を模倣や実施できるようになるために、診療参加型臨床実習(clinical clerkship:以下CCS)を通し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習することとする。 ＜臨床実習Ⅱの教育目標＞ CEの指導・監視のもと、理学療法士・作業療法士としての倫理観や基本的態度を身に付け、実施を推奨する臨床技能およびCEの臨床的思考過程において「模倣レベル」から「実施レベル」のスキルを修得する。	医療法人八女発心会姫野病院、社会医療法人天神会古賀病院21、医療法人畏敬会井野辺病院、医療法人秋津会徳田脳神経外科病院、医療法人小西第一病院 総数 27施設

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専攻分野における実務に関する知識・技術・技能の修得・向上に関する研修、又は授業及び学生に対する指導能力等の修得・向上に関する研修等を、学院長又は学科長が所属教務職員の意向を参酌し、個々の到達目標をたて、その目標に沿って年間研修計画をたてるとすることなどを教職員研修規程で定める。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「福岡県作業療法学会」(連係企業等:福岡県作業療法学会)

期間:(令和3年2月28日) 対象:作業療法士、一般

内容:統合失調症の方による体験談

②指導力の修得・向上のための研修等

※新型コロナウイルス感染予防のため未実施

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

※新型コロナウイルス感染予防につき、現在予定なし

②指導力の修得・向上のための研修等

※新型コロナウイルス感染予防につき、現在予定なし

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会を設置し、外部委員に学校関係者として専攻分野の企業等の役員を2名以上参画させ、教育活動や学校運営等についての自己評価結果に基づいた学校関係者評価を実施し、教育活動やその他学校運営の改善に活かすことなどを学院長が決定する。年1回以上実施する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	○理念・目的・育成人材像は定められているか ○学校の特色はなにか ○学校の将来構造を抱いているか

(2) 学校運営	<input type="checkbox"/> 運営方針は定められているか <input type="checkbox"/> 事業計画は定められているか <input type="checkbox"/> 運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか <input type="checkbox"/> 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか <input type="checkbox"/> 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<input type="checkbox"/> 教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界のニーズレベルに照らして、また教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか <input type="checkbox"/> カリキュラムは体系的に編成されているか <input type="checkbox"/> 各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか <input type="checkbox"/> 授業評価の実施・評価体制はあるか <input type="checkbox"/> 育成目標に向けた授業を行うことができる要件を備えた教員確保をしているか <input type="checkbox"/> 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか <input type="checkbox"/> 資格取得の指導體制はあるか <input type="checkbox"/> 教職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	<input type="checkbox"/> 就職率の向上が図られているか <input type="checkbox"/> 資格取得率の向上が図られているか <input type="checkbox"/> 退学率の低減が図られているか <input type="checkbox"/> 卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5) 学生支援	<input type="checkbox"/> 進路就職に関する支援体制は整備されているか <input type="checkbox"/> 学生相談に関する体制は整備されているか <input type="checkbox"/> 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか <input type="checkbox"/> 学生の健康管理を担う体制はあるか <input type="checkbox"/> 課外活動に対する支援体制は整備されているか <input type="checkbox"/> 学生の生活環境への支援は行われているか <input type="checkbox"/> 保護者と適切に連携しているか <input type="checkbox"/> 卒業生への支援体制はあるか
(6) 教育環境	<input type="checkbox"/> 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか <input type="checkbox"/> 学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか <input type="checkbox"/> 学内外の実習施設について、十分な教育体制が整備されているか <input type="checkbox"/> 防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<input type="checkbox"/> 学生募集活動は適切に行われているか <input type="checkbox"/> 高等学校等に対する情報提供は適切に行われているか <input type="checkbox"/> 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか <input type="checkbox"/> 学生募集活動において教育成果は適切に伝えられているか <input type="checkbox"/> 学納金は妥当なものになっているか <input type="checkbox"/> 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか
(8) 財務	<input type="checkbox"/> 中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか <input type="checkbox"/> 予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか <input type="checkbox"/> 財務について会計監査が適正に行われているか <input type="checkbox"/> 財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<input type="checkbox"/> 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか <input type="checkbox"/> 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか <input type="checkbox"/> 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか <input type="checkbox"/> 自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<input type="checkbox"/> 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか <input type="checkbox"/> 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか
(11) 国際交流	<input type="checkbox"/> 留学生の受け入れ・在籍管理にお適切な手続等がとられているか <input type="checkbox"/> 留学生の学修・生活活動指導について学内に適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(意見) 学修成果について、フィジカルアセスメントは身につけるのは難しいが、臨床ですぐ使える。生理学の分野も理解を深める工夫をしてほしい。

→(活用) 動画で視覚的聴覚的に学べる学習教材を取り入れているが、学生の活用状況を把握して活用を促した。

(意見) 教育活動について、病院では地域包括にも視野を向けており、今後注目される分野になる。

→(活用) 地域リハビリテーションの科目は、訪問から在宅と幅広く、適した外部からの複数の講師でオムニバス形式で授業を実施した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
井手 翔太郎	医療法人社団俊聖会 甘木中央病院	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	企業等委員
生野 正芳	医療法人 原鶴温泉病院	令和3年9月1日～令和4年3月31日(半年)	企業等委員
高山 皓	株式会社コスモ デイサービスこすも	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	企業等委員
田才 葵	社会医療法人聖ルチア会 聖ルチア病院	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	企業等委員 及び卒業生
堀下 誉晃	医療法人八女発心会 介護老人保健施設舞風台	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	企業等委員 及び卒業生

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ URL: <https://kurumereha.ac.jp> ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

令和3年7月公表

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に基づき、ホームページ上で積極的に情報提供を行い、毎年新しい情報を更新するほか、毎年臨床教育者会議を実施し連携を取っている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	○教育ポリシー ○久留リハ4つの強み
(2)各学科等の教育	○カリキュラム ○年間スケジュール ○国家試験
(3)教職員	○教員紹介 ○授業評価
(4)キャリア教育・実践的職業教育	○就職について ○医療法人立リハビリ学校
(5)様々な教育活動・教育環境	○施設・設備案内 ○全国初のe-school授業 ○サークル活動
(6)学生の生活支援	○学生寮・アパート
(7)学生納付金・修学支援	○学費 ○学費分割プラン ○奨学金制度 ○入学特典
(8)学校の財務	○賃貸対照表
(9)学校評価	○学校自己評価 ○学校関係者評価
(10)国際連携の状況	○留学生入試/WFOT加盟校
(11)その他	

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())令和3年7月公表
URL: <https://kurumereha.ac.jp>

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科) 2021年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			社会福祉概論	福祉制度の意義や理念、福祉政策のニーズと資源・課題について理解する 福祉政策の構成要素や関連政策の関係、相談援助活動と扶育し政策との関係を理解する等。	1年・前	30	2	○			○			○		
○			心理学	国家試験に必要な知識の習得を図る 心理学的基礎知識を基に2年次の精神医学に繋がる知識、考え方を身に付ける	1年・後	30	2	○			○		○			
○			社会性向上セミナーⅠ	①医療人としての意識を高め、素地を育む ②医療人として必要な広い社会性を身に付ける ③職業の素晴らしさを知り理学療法士になるという動機付けを高める ④講義を通して自身の考えをまとめ人に伝える力を身に付ける	1年・後	30	2	○			○				○	
○			情報処理	PCの簡単な操作ができること MS-Wordを用いて簡単な文書を作成し印刷できること、また、Excelを用いて簡単な表が作成できること	1年・前	30	2	○			○				○	
○			医学英語	実践に必要な英文法を理解する 副教材により英語のリズム、発音の基礎を学ぶ 医療現場でのコミュニケーションの基礎を作る	1年・前	30	2	○			○				○	
○			運動系統学Ⅰ	理学療法士の基礎となる解剖・生理学を骨、関節、靭帯、筋を系統立てて運動器として理解する	1年・前	45	2	○			○			○		
○			運動系統学Ⅱ	解剖・生理学を骨、関節、靭帯、筋を系統立てて運動器として理解する。	1年・後	45	2	○			○			○		
○			神経系統学Ⅰ	①神経系の各部の構成について学び説明できる ②神経系の各部の機能について学び説明できる	1年・前	45	2	○			○			○		
○			神経系統学Ⅱ	①神経系の各部の構成を学び説明できる ②神経系の各部の機能を学び説明できる ③神経系の構造と機能を学び、疾患や理学療法、作業療法との関連を理解する	1年・後	45	2	○			○			○		
○			臓器系統学Ⅰ	内臓器の解剖学的特徴の基本を知る 内臓器の生理学的作用の基本を知る	1年・前	45	2	○			○			○		
○			臓器系統学Ⅱ	内臓器の解剖学的特徴と生理学的作用の基本を知る	1年・後	45	2	○			○			○		
○			運動系統学Ⅲ	上肢および体感に関し、運動器を復習しながら各関節で起こる運動を学び説明できる	2年・前	45	2	○			○			○		
○			運動系統学Ⅳ	下肢を構成する運動器を身体運動の観点から統合することができる 姿勢・歩行の概念と各運動器と関連性が統合できる	2年・後	45	2	○			○			○		

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科) 2021年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			神経系統学Ⅲ	自律神経系の構造と機能を学び説明できる 反射について学び説明できる	2年・前	45	2	○			○	○				
○			神経系統学Ⅳ	感覚機能に関与する基本的な神経の機能解剖を学び、感覚障害を理解する基礎とする 高次脳機能について学び説明できる	2年・後	45	2	○			○	○				
○			臓器系統学Ⅲ	臓器系統学Ⅰ・Ⅱの知識を再確認し、国家試験に見合う知識を得る。国家試験が解答できるレベルが今学習の到達点とする。内科学・整形外科学・神経内科学の基礎となる。	2年・前	45	2	○			○	○				
○			臓器系統学Ⅳ	臓器系統学の知識を再確認し、国家試験に見合う知識を得る。国家試験が解答できるレベルが今学習の到達点とする。内科学・整形外科学・神経内科学の基礎となる。	2年・後	45	2	○			○	○				
○			病理学	総論では疾病の原因と成り立ちを理解する 各論では理学・作業療法の対象となる疾患の病態発生を理解する	1年・後	30	2	○			○	○				
○			内科学Ⅰ	理学療法に必要な内科学の基礎と臨床を習得する 内科疾患の成り立ちや診断基準を、臓器別あるいは病因論別に習得する	2年・前	30	2	○			○	○	○			
○			内科学Ⅱ	理学療法に必要な内科学の基礎と臨床を習得する 内科疾患の成り立ちや診断基準を、臓器別あるいは病因論別に習得する	2年・後	30	2	○			○	○	○			
○			整形外科学Ⅰ	理学療法に必要な整形外科学の基礎と臨床を習得する 国家試験に必要・最低限の知識を確実に習得する	2年・前	30	2	○			○		○			
○			整形外科学Ⅱ	理学療法に必要な整形外科学の基礎と臨床を習得する 国家試験に必要・最低限の知識を確実に習得する	2年・後	30	2	○			○		○			
○			神経内科学Ⅰ	臨床実習に直結する内容を精査し解説する 筋電図・脳波・画像検査など、臨床実習に直結するため理解する	2年・前	30	2	○			○			○		
○			神経内科学Ⅱ	各種疾患に直結する内容を精査し解説する 検査・評価・診断・リハビリ治療関連項目は臨床実習に直結するため理解する	2年・後	30	2	○			○			○		
○			精神医学Ⅰ	医療に携わる中での精神医学の基礎知識を身につける。作業療法士国家資格に必要な知識を習得する。現在の精神科領域を知るとともに、現代社会と人の心理との関係を把握する。	2年・前	45	2	○			○		○			
○			精神医学Ⅱ	医療に携わる中での精神医学の基礎知識を身につける。作業療法士国家資格に必要な知識を習得する。現在の精神科領域を知るとともに、現代社会と人の心理との関係を把握する。	2年・後	45	2	○			○		○			

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科) 2021年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			小児科学	国家試験に出題される項目に沿って学習し習得する。リハビリテーションの現場において必要な小児科学の一般知識を習得する	2年・後	30	2	○			○			○	
○			リハビリテーション概論	リハビリテーション職種の職域や業種の特徴を知り、医療専門職の資格修得に向けての見識を学ぶ	1年・前	30	2	○			○			○	
○			リハビリテーション医学	リハビリテーションに関する疾患や病態、それらに対応する実際の概要を理解する	1年・後	30	2	○			○			○	
○			理学療法士論	理学療法、理学療法士とはなにか、理学療法の対象や理学療法士が活躍する分野等を理解する。物理療法の種類、適応と禁忌、使用方法を学ぶ。	2年・前	30	1	○			○			○	
○			作業療法概論Ⅰ	作業の意味と役割を学び、歴史的位置づけを知る 興味・関心を持って履修する 用語について理解する 概論授業を通して学習方法について学ぶ	1年・前	30	2	○			○			○	
○			作業療法概論Ⅱ	臨床実習について理解し、臨床実習の実情、在り方、目的、必要性について学ぶことで、学生自身が作業療法士となるために主体的に取り組めるために行動変容となる	1年・後	30	2	○			○			○	
○			作業療法演習	身体の基本的な構造を知る 身体を構成する骨を体表から触診技術を身に付ける 基本的な評価を学ぶ上で必要な知識、技術を習得する	1年・前	30	1		○		○			○	
○			作業療法評価Ⅰ	基本的な評価について意義目的を知り実技を習得する。基本的な介助方法を学び身体移動に対する知識を習得する。生命維持の身体の指標であるバイタルサインの基礎を学び実施する。	1年・後	30	2		○		○			○	
○			臨床技能演習Ⅰ	作業療法における基本的な臨床技能について意義や目的を知り実技を習得する 基本的なリスク管理、コミュニケーション方法を学び知識を習得する	1年・後	30	2		○		○			○	
○			作業療法評価学Ⅱ	作業療法における基本的な評価（関節可動域測定、反射検査、筋緊張検査、徒手筋力検査）について意義目的を知り、実技を習得することが出来る。	2年・前	45	2	△	○		○			○	
○			臨床技能演習Ⅱ	作業療法における基本的な評価について意義目的を知り、OSCE（客観的臨床能力試験）を通して、実際の臨床場面で必要な臨床技能を身に付ける。	2年・後	45	2	△	○		○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科) 2021年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			基礎作業学Ⅰ	「作業」とは何かを知り、捉え方、考え方を身に付けるとともに、作業の種目を実際に経験する。また、作業分析を通して、作業の治療効果を知る。	1年・前	30	1		○		○				
○			基礎作業学Ⅱ	作業療法士が視点をおく作業に対しての意味を理解し、作業を治療にどう活かすのかを考える。また、作業分析を通して作業選択の方法を考える足掛かりとする。	1年・後	30	1		○		○				
○			日常生活活動Ⅰ	ADLの概要を理解する。ADL動作を理解し各評価の概要・採点方法を理解する。ADLと作業療法士の関わりを理解し対象者のADLを評価できるようになる。	2年・通	60	2	○			○				
○			介護・体験実習	①学生としての心構えを身につける。 ②時間や規則を守る、体調管理ができる。 ③利用者様と職場スタッフとの人間関係をつくる。 ④報告・連絡・相談ができるようになる。 ⑤整理整頓ができる。 ⑥介護老人保健施設・サービス付き高齢者住宅の社会的な位置づけを理解する。 ⑦コミュニケーション能力の向上に努める。 ⑧見学を通して得られる情報を収集する。 ⑨記録を取り、提出することができる。	2年・前	45	1			○		○			
○			臨床見学実習	施設の規則や時間の厳守、適切な言葉遣いなど社会人としてのルールを守る。仕事の流れを知る。リハビリテーション分野でのやりがいを述べる事ができる。デイリーノートに実習で学びを記録し報告することができる。	1年・通	40	1			○		○			
○			生理学演習	心臓の解剖整理について理解する 超音波・X線・CT・MRIの基礎を理解する 吸引の方法を理解する等	3年・後	30	1	○	△		○				
○			保健医療福祉の制	国の在り方の変化に伴い、理学療法士の在り方も大きく影響を受ける事から。何を考えどのように職責を果たせば良いのか考える	3年・後	30	2	○			○				
○			作業療法評価学実習	①作業療法における評価の意義・目的を知る。②各検査・測定ごとに評価の目的、評価方法を学ぶ。③評価測定技術を習得、学習し、測定ができるようになる。④OSCEを通して臨床技能を磨く	3年・通	90	2	△	○		○				
○			精神科評価学	模擬症例を通して精神科評価の項目、方法について学ぶ。臨床実習におけるチェックリストの内容とすべきことを知る。各種評価法について基礎的な知識を学ぶ。	3年・前	30	2	○			○				

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科) 2021年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			基礎作業学	作業療法場面でに行われている作業を実践・分析し、臨床におけるクライアントへの作業療法における基礎的な考え方を身につける	3年・通	90	3	○			○			○		
○			身体障害作業療法Ⅰ	身体障害作業療法学についての知識、評価、実践指導についての理解を深める。中枢神経系、難病疾患についての病態を理解し、各疾患の症状や留意点が理解できる。	3年・前	45	2	○	△		○			○		
○			身体障害作業療法Ⅱ	・各疾患における症状や病態に対する禁忌や留意点、治療的介入の概要が把握できる。 ・臨床実習に臨むための基礎的な知識、評価法、姿勢を身に付ける。	3年・後	45	2	○	△		○			○		
○			高次脳機能障害作業療法	高次脳機能障害の症状理解と評価・訓練の実際を知る	3年・前	30	2	○			○				○	
○			精神障害作業療法	精神障害分野における作業療法の役割について学ぶ力をつける。神障害者への作業療法の実際について学び具体的アプローチについて考える。実習において最低限の評価が可能となること。	3年・通	90	3	○				○			○	
○			発達障害作業療法	粗大運動や巧緻動作の発達を学習する中で姿勢と運動の関係や運動に関する基礎知識を養う。	3年・通	60	2	○				○			○	○
○			高齢作業療法	高齢社会を理解し、問題点を述べることができる。高齢者の特徴を理解し、問題点を述べるができる。高齢期作業療法の実践内容を述べるができる。	3年・前	30	2	○				○			○	
○			日常生活活動	1.各疾患の概要と特徴を理解し、ADL動作へ繋げていく。 2.各疾患のADL動作を理解し、対象者へアプローチができるようになる。 3.福祉用具・自助具の使用法を理解し、各疾患ADLへ繋げていく	3年・通	90	3	○				○			○	
○			義肢装具学	義肢装具の理解 義肢装具の種類、疾患との関係の理解	3年・通	60	4	○				○				○
○			臨床作業療法	・実践的なCognitive skill(認知スキル)を身に付ける。 ・多くの情報から要点を整理し問題点を抽出できる。 ・セラピストとしての実践的な知識の使い方 ・思考過程を学ぶ等。	3年・後	45	2	△	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科) 2021年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			地域リハビリテーション	1. 地域リハビリテーション・地域作業療法の概要を理解する。 2. 地域における作業療法の役割について理解する。 3. 地域作業療法に関わる関連法規・サービスについて理解する等。	3年・前	30	2	○			○			○	
○			生活環境論	1. 生活環境という概念の理解と留意点を理解する。 2. 生活環境学の関連法規を理解する。 3. 住宅整備・福祉用具・自助具の目的・使用法を理解しADLへ繋げていく等。	3年・前	30	1	○			○		○		
○			臨床実習Ⅰ	臨床教育者（以下CE）による、ある程度の助言・指導のもと理学療法・作業療法を模倣や実施できるようになるために、診療参加型臨床実習（clinical clerkship: 以下CCS）を通し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習することとする。 ＜臨床実習Ⅰの教育目標＞ CEの指導・監視のもと、理学療法士・作業療法士としての基本的な資質を高め、実施を推奨する臨床技能およびCEの臨床的思考過程において「模倣レベル」のスキルを修得する。	3年・後	135	3			○		○		○	○
○			臨床実習Ⅱ	臨床教育者（以下CE）による、ある程度の助言・指導のもと理学療法・作業療法を模倣や実施できるようになるために、診療参加型臨床実習（clinical clerkship: 以下CCS）を通し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習することとする。 ＜臨床実習Ⅱの教育目標＞ CEの指導・監視のもと、理学療法士・作業療法士としての倫理観や基本的態度を身に付け、実施を推奨する臨床技能およびCEの臨床的思考過程において「模倣レベル」から「実施レベル」のスキルを修得する。	4年・通	810	18			○		○		○	○
○			作業療法セミナー	4年間の知識の再確認と国家試験に必要な知識の習得	4年・通	120	8	○			○		○		
合計			61 科目		3,445 単位時間 (142 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
4年の修業年限以上を在学し、履修すべき全科目の認定および卒業試験に合格して課程修了を認められた者は卒業認定会議を経て学院長が卒業を認定する。履修については、出席が当該学年において各科目の履修すべき授業時数の3分の2を満たしていること、また履修すべき科目の修得認定試験等に合格し、認定を行う。演習・実習科目は、演習・実習時の履修状況を評価し当該科目の認定を行う。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。